

十勝組 第9期

連研通信

十勝組 研修部

二〇一二年三月三日、本願寺帯広別院にて、第九回連研が開催されました。

七カ寺から二十六名の参加でした。

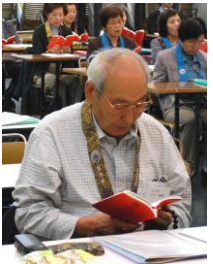
開会式では全員で『讚仏偈』をいただきます。

なお、別院から参加の吉川勝晴さんが二月二十五日に往生の素懐を遂げられました。「この世は何が起こるか分からない」、「すべて阿弥陀さまにおまかせ」、「俱会一処のお浄土で再び相まみえることができる」という教えを聞いている私たちではありますが、それでも今生での別れはとても寂しいです。

ご家族・有縁の方々の



お気持ちをお察ししつつ、お念仏申し上げます。南无阿彌陀佛。おつとめ・作法は脇谷さん。ひきつづき『正信偈』をいただいています。ご和讃も「三重」を残すのみです。今回のテーマは「私は脳死や臓器移植など、その他の「いいの?」担当は石田智秀さん(音更・妙法寺)でした。いろいろな質問に全部答えようとして、てんやわんになつてしまいました。話の中で出てきた「五蘊仮和合」は、「色・受・想・行・識



「色・受・想・行・識」は、

「色・受・想・行・識」は、



の五種。人間の肉体と精神を五つの集まりに分けて示したのも。この五蘊が仮に集合して人間が存在している」ということです。「色蘊」はもとは人間の肉体を意味したが、後にはすべての物質も含むようになった。「受」は感受作用、「想」は表象作用、「行」は意志作用、「識」は認識作用。(参考:岩波仏教辞)。これは「無我」を説明しています。「そんなものでしかない私が自分の臓器の行方を決定しているのか?」という問いは大変に重くと思います。次回もともに学んで参りましょう。※ひとこと感想を紹介します。「とてもむつかしいテーマでした。移植・尊厳、どちらも、私の意志で伝えることが出来る時と、周りが考える時とのむつかしさが大きいと思いました。





勉強になりました。班の話し合いがとてもむずかしい」「回を重ねるたびにむずかしくなりましたが、連研を楽しみに通っています。それぞれの住職さまありがと

うございます」「回を重ねるたびにむずかしくなり、今回のテーマは本当に大事なことだと思います。不意な事故に見舞われた場合は提供してあげたいですが、親族によって反対があります。この問題は深い話です。非常の良いテーマです。今後も考えたいです」「正信念仏偈、おしえていただきありがとうございます。脳死臓器移植のお話、難しかったです、すこしわかってきました」「一回お休みしました」「一回お休みしてしまいましたが多回勉強することが多くあります。今回のテーマは自分に起こってないことなので考えがまだまとまりが付きませんが、私



の臓器が相手の助けを助けることができるのであれば：と考へさせられます」「今回のテーマは身近な問題なので家族で話し合ってみたいと思います」「今日は脳死。本当にだんだんむずかしい」「話し合いの時間が足りません」「連研の勉強にしているいろと先生たちの準備などに大変感謝しております。まだまだ自分自身の知り得ないことがたくさんあり、続けて行きたいものです」「臓器移植については、人を助ける意味においてには良いことかもしれないかもしれませんが、仏の教えに与る身あずかとしては、私の身体は私のものではないでしょうか？」

〈了〉

私の臓器が必要となった時は移植に使用してもらって良いと思う」「むずかしい問題でした。その時にならないければ分からないが自分は自然死が良い。皆さんでの話し合いも良かったですが、石田先生も良かったです。いろいろ考えることがたくさんあるようです」「本日の臓器の移植の話、良い話ではありますが、とてもむずかしかったです。



うございます」「回を重ねるたびにむずかしくなり、今回のテーマは本当に大事なことだと思います。不意な事故に見舞われた場合は提供してあげたいですが、親族によって反対があります。この問題は深い話です。非常の良いテーマです。今後も考えたいです」「正信念仏偈、おしえていただきありがとうございます。脳死臓器移植のお話、難しかったです、すこしわかってきました」「一回お休みしました」「一回お休みしてしまいましたが多回勉強することが多くあります。今回のテーマは自分に起こってないことなので考えがまだまとまりが付きませんが、私

の臓器が相手の助けを助けることができるのであれば：と考へさせられます」「今回のテーマは身近な問題なので家族で話し合ってみたいと思います」「今日は脳死。本当にだんだんむずかしい」「話し合いの時間が足りません」「連研の勉強にしているいろと先生たちの準備などに大変感謝しております。まだまだ自分自身の知り得ないことがたくさんあり、続けて行きたいものです」「臓器移植については、人を助ける意味においてには良いことかもしれないかもしれませんが、仏の教えに与る身あずかとしては、私の身体は私のものではないでしょうか？」

